

投稿の受付を再開します

情報誌「大学評価とIR」

査読ループリックと査読プロセスについて令和2年9月1日から改正し、投稿の受付を再開します。

○ 査読用ループリック（事例報告）の修正について

- ・ 事例報告については、投稿いただいている原稿の内容等を踏まえ、項目と基準を修正しました。
- ・ 論理的に破綻していなければ原則的に掲載するという方針を再確認し、ガイドラインについても見直しました。
- ・ 区分、論説については、当面の間、引き続き受付を休止します。

査読の基準	査読の観点
① 課題を明確に捉えているか	○ 報告のテーマが明確に示されているか。*
② 利用可能性・応用可能性の高い情報提供となっているか	○ 組織の記述、手法の記述、ツールの記述等に際して、読者が参考にし得る具体的な情報が記述されているか。
	○ 図表などを用いて、具体的な説明に心がけているか。
③ 気づきや示唆が一定程度示されているか	○ 高度な専門的知識がなくとも理解できそうな内容になっているか。
	○ 本報告の意味について投稿者から読者へのメッセージが必要に応じて示されているか。
④ 記述に論理的な矛盾がなく、事務系職員や教員が読みやすいものになっているか	○ 文章の上手い、下手ではなく、話の流れがあり、平易で簡潔な言葉で説明がなされているか。
	○ （文中に文献、資料、webサイトを掲出した場合）出所を明らかにしているか

※ 基準「①課題を明確に捉えているか」については、以下の2点を推奨事項とするが、このような記載が無くとも査読には影響しない。

- 著者らが自大学の取組事例を報告する場合は、その取組開始に至った動機も含めて記載があるとよい。
- 著者らが調査した複数大学の事例を報告する場合は、その調査を立案するに至った著者らの動機も含めて記載があるとよい。必要に応じて、先行事例についても簡潔に触れるとなおよい。

○ 査読プロセスの改正のポイント

- ・ 「読みやすさチェック」については、投稿者が希望した場合を除き、誤字脱字等のチェックにとどめます。
- ・ これは、これまでの査読や校閲作業において、「読みやすさチェック」の担当者依存性が高く、いわゆるレトリックへの修正示唆までは適当ではないだろう、という判断からです。

詳細はwebサイト等をご覧ください。

<http://iir.ibaraki.ac.jp/jcache/index.php?page=lib>